

顎咬合学会東北支部学術大会に参加して

2018年11月25日、宮城県歯科医師会館にて開催された、2018年度 第24回日本顎咬合学会東北支部学術大会に参加しました。参加人数は160人を超え、とても活気ある講演会でした。

午前中は会員発表と、有料ハンズオンが行われ、会員発表では合計8名の会員の方々が発表されました。

山形庄内からは、お世話になっている五十嵐 亮 先生が「暫間義歯を応用したIODの治療計画と留意点」と題し、インプラントの埋入位置や本数、床形態の厚みなどを考慮する際の暫間義歯の有用性を示唆される講演をされました。

また、平栗布海 技工士による『等脚台形法の応用模型分析 ～より生体に調和した総義歯製作するために～』と題したハンズオンセミナーが行われ、弊社はみんなで参加しました。等脚台形法についての背景や目的の講義と、ペーパーと簡易定規を使っての実技演習が行われ、改めてモデルアナリシスの重要性を実感しました。

午後からは特別講演にて、

- ・ 山口 幸子 歯科衛生士 「長期的安定を目指した口腔衛生管理を考える」
- ・ 遊亀 裕一 歯科技工士 「歯周組織にやさしいクラウンを目指す」
- ・ 亀田 行雄 歯科医師 「本当のチーム医療 ～その補綴で本当にいいの？～」

の各公演が行われました。

著名な先生方のご講演に活発な質疑応答が行われ、とても有意義な時間となりました。

